



1744点の文具を集めた高知大付属特別支援学校高等部の尾崎源太さん(左から3人目)と生徒会メンバーら(高知市曙町2丁目)

高知大付属特別支援学校

不用文具途上国へ

高知大付属特別支援

学校(高知市曙町2丁目)の高等部がこのほど、発展途上国の子どもたちへ届ける文具集めに取り組んだ。生徒会長の発案から、使わなくなった鉛筆やノートなど1744点を2カ月ほどで収集。全国の文具とともに、支援活動に取り組む団体によってカンボジアへ届けられる。

2年で生徒会長の尾崎源太さん(17)は「生活必需品も手に入れることができない人が世界にはいるのに、使える物でも捨ててしまう」日本の現状を問題と感じていた。

保護者・企業も協力 鉛筆、ノートなど1744点

昨年9月、教員の後

掛けた。

押しもあり、問題解決へ「自分たちができること」をリサーチ。その中では出合ったのが、使わなくなった文具を途上国に送っている団体「エンビッププロジェクト」(東京都、小沢真紀代表)。

同団体へ連絡し、オンライン会議も実施。小沢代表から「文具が足りず十分な教育が受けられない地域がある」と教えられた。すぐさま同団体への協力を生徒会で提案。10月に入ると、校内に文具を集めるための箱を設置。同校の小中高等部の児童生徒61人に

「文具のリサイクルは環境問題として大切」

「困っている人の助けにもなる」と、校内放

送や自作チラシで呼び

その輪は児童生徒か

ら保護者、さらに同校

とつながりある企業に

も拡大。昨年未までに

家などに眠っていた鉛

筆、ノート、消しゴム、

クレヨンなど計174

4点が集まり、1月中

旬に同団体へ送った。

サポートした安岡知

美教諭は「世界の問題

に対し、自らアイデア

を出し、やり続けた。で

も本当に「ここまでやる

とは」。尾崎さんは「支

援の広がりを感じて

いた。これだけあれば

勉強にも遊びにも使え

ると思う。喜んでくれ

たとえ「話して

たらい」と話し

たらい」と話し

(新田祐也)